

# 在宅医療・介護多職種連携協議会 多職種連携・情報共有システム部会 ～報告～

## 部会の目的

在宅医療に係る多職種連携の推進及び情報共有システムの効果的な活用について検討する。(試行WG, 試行WG評価チームの発展形)

- 症例を通じた多職種連携ルールの検討
- 好事例を基にした情報共有システムの活用方法の検討

令和3年度

## 第3回多職種連携・情報共有システム部会

(令和4年2月14日 Zoomにて開催)

### 報告事項

1. ルール緩和の成果
2. 個人情報保護研修会の実施報告

### 議事（グループディスカッション）

1. 多職種連携の困り事の共有

**テーマ：4場面（入退院支援・日常の療養支援・急変時の対応・看取り）  
における多職種連携の困り事について**

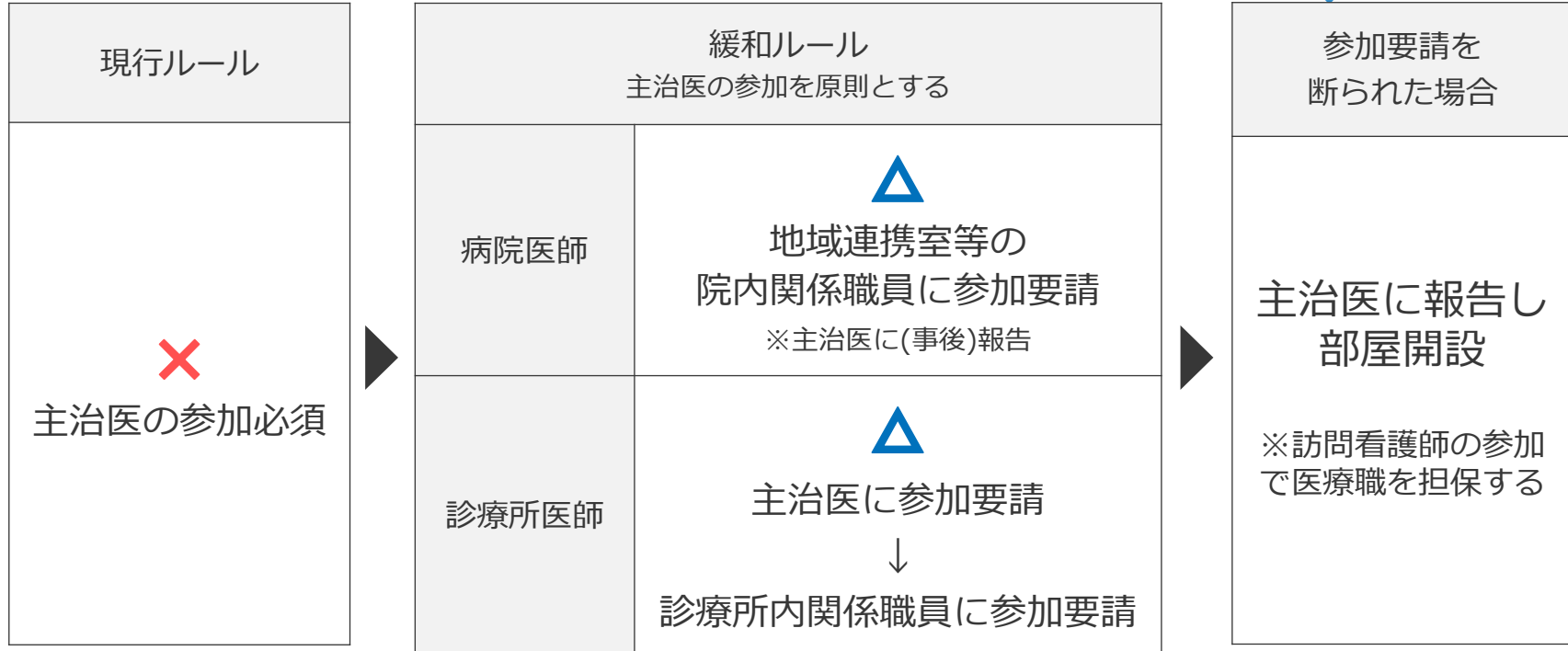
グループワーク1 同職種間での困り事の共有

グループワーク2 多職種間での困り事の共有

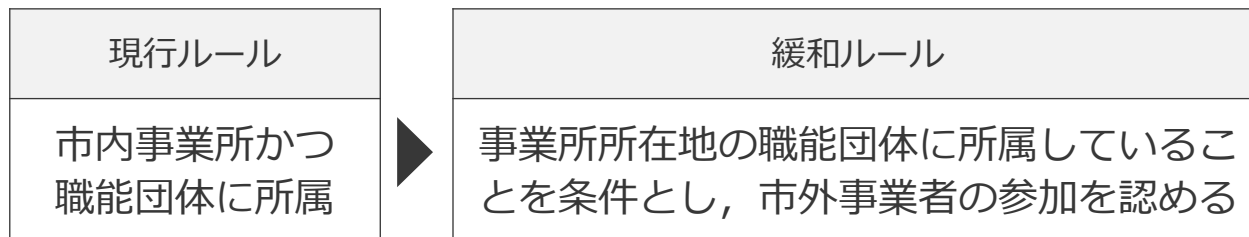
## 狙い

多職種連携を盛り上げ  
主治医の興味関心を引き出す

### ルール緩和① 主治医の参加を原則とする



### ルール緩和② 市外事業者の参加を認める

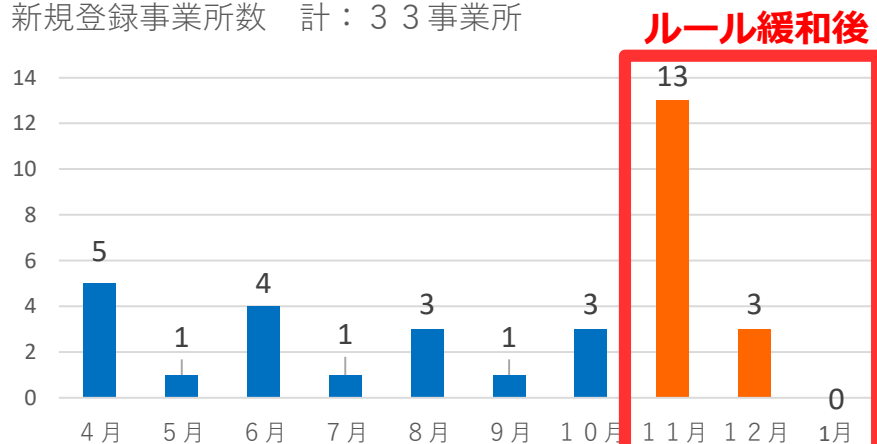


※税金による運用のため、  
利用者（患者）は柏市民に限る

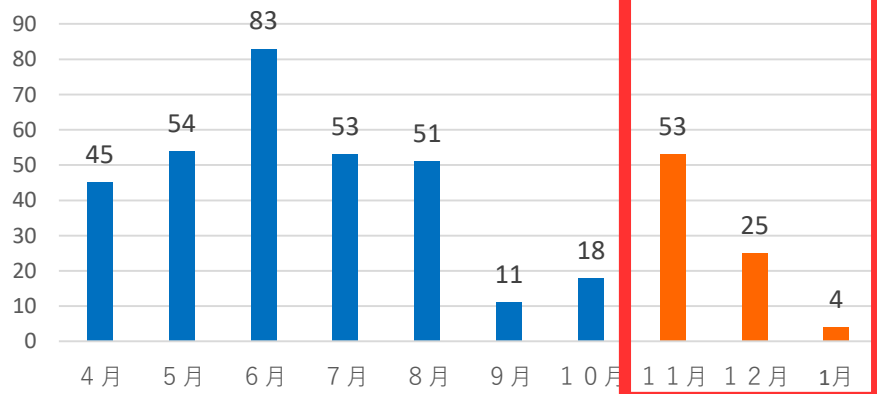
## 月別 新規登録事業所数・ID保有者数（R3.4月～R4.1月末）

- ルール緩和後の11月では、新規登録事業所数および新規ID保有者数がともに上昇している。

新規登録事業所数 計：33事業所



新規ID保有者数 計：397人



市内/市外	新規登録事業所数	種別
市内	12	病院（2） 薬局（2） 定期巡回（2） 居宅介護支援 通所介護 通所リハ 夜間対応型訪問介護 福祉用具貸与 相談支援事業所
市外	4	訪問介護（2） 診療所 福祉用具貸与

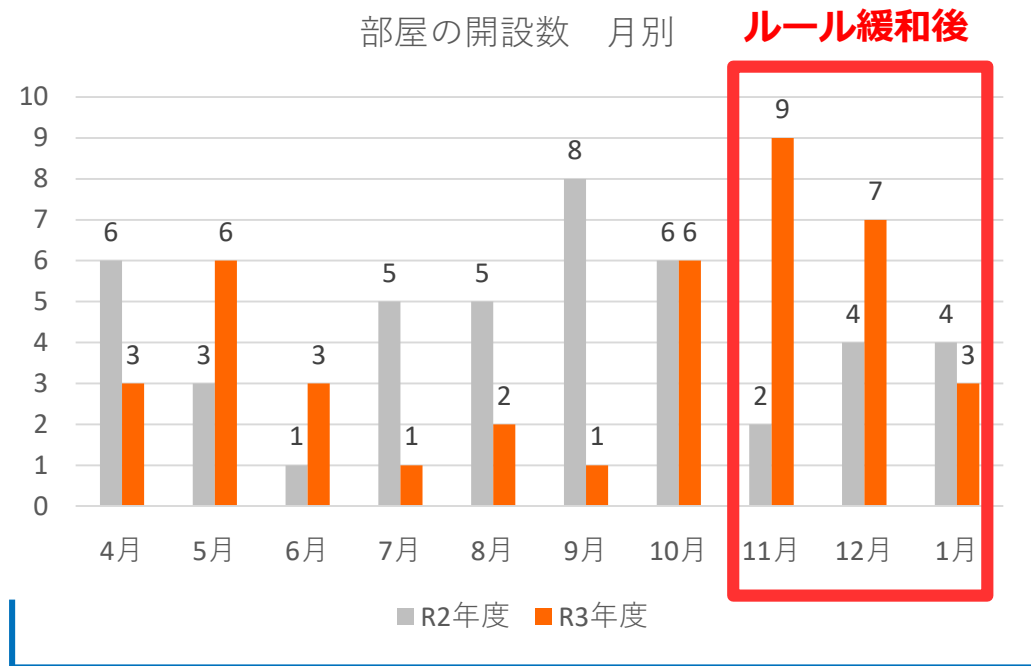


- 市外事業所の参加によりみえたこと
  - ・ 市境のエリアでは、市外事業所の参加により、支援チーム内の連携が充実されている。
  - ・ 市外診療所の参加により、積極的な活用の動きがみられ、支援チーム内での新規登録が増加している。

※ 4月～8月は、現況確認による人員の異動が発生している時期です。  
 ※ 有料ユーザーを除いています。次年度以降、有料ユーザーを含めた分析を行う予定です。

## 部屋の開設状況 (R4.1月末時点)

- ルール緩和後の11月以降では、部屋の開設が増えた。



全体の部屋開設申出者

### ■ 医師の部屋参加別内訳

医師の部屋参加	部屋の件数
あり	16件
なし	<b>3件</b> ※いずれも病院の主治医の代わりに、MSWが参加

	医師	看護師	ケアマネ	MSW	その他
令和2年度 (1月末)	4件	7件	20件	4件	9件 ※薬剤師 8 包括 1
ケアマネ実人数			16人		
令和3年度 (1月末)	5件	8件	24件	4件	0件
ケアマネ実人数			20人		

- ケアマネの申出件数・・・昨年度比約20%上昇
- 初めての申出者・・・R2 1人  
R3 4人  
(ケアマネ 4人※うち包括1名)

## 成果

- 病院関係者や市外事業所の参加により、地域内や支援チーム内での連携推進のツールとして、カシワニネットの利用促進につながっている。
- ルール緩和のタイミングで開催したMSW会議や顔の見える関係会議等が後押しとなり、関心の高まりにつながられた。



- ルール緩和により、カシワニネットの活用への意識・機運の高まりにつながっている。
- カシワニネットをツールとした病院と在宅との連携推進、支援チーム内の連携促進につながっている。

## 今後の取組の方向性

- 部屋稼働の好事例や申出者の生の声（きっかけ、感想、メリット等）、ルール緩和の成果等をまとめて、積極的に発信していく。
  - （具体策）・職能団体への報告
    - ・令和4年4月 現況届発送時に同封

# 報告 2 | 個人情報保護研修会の実施報告

## 研修の目的

- カシワニネットの利用において、患者一人一人の個人情報を取り扱うことを踏まえ、利用する各職種が、個人情報保護に対する意識と知識を高めることを目的に実施する。
- 一人でも多くの利用者に受講してもらい、研修を契機に適切な個人情報の取扱いを意識し、実践してもらうこと。

## 過去の取組状況

年度	参加事業所数	参加率 ※事業所数ベース	参加者数	事例紹介	実施形態等
H26	139	83.7%	-	・実際に活用したチームでの事例紹介 ・グループディスカッション	<b>集合型研修</b>
H27	172	77.1%	-	・運用マニュアル紹介 ・事例紹介：医師会、リハ連	
H28	185	74.9%	-	・事例のグループディスカッション	
H29	149	48.6%	-	・事例紹介：リハ連	
H30	171/360	47.0%	177名	事例紹介：薬剤師会、ケアマネ協議会	
R1	169/392	43.1%	169名	事例紹介：ケアマネ協議会、訪看連絡会	← <b>アンケート実施</b> ※研修に参加していない事業所対象
R2	135/433	31.1%	228名以上	なし	<b>eラーニング（試行版）</b>

不参加理由：  
「時間が合わない」  
約 7.1%

今年度

日程や時間に縛られず、より受講しやすい方法として  
研修システムを活用したeラーニングを本格導入

日程、時間に縛られない  
オンライン研修スタート

# 報告 2 | 実施状況

項目	概要および結果
実施期間	令和4年1月14日（金）～令和4年1月27日（木）※約2週間
受講対象者	1,917名 (カシワニネット担当者 430名, 担当者以外の利用者 1,487名)
受講対象事業所	430事業所
受講形式	研修システムを利用したeラーニング
<b>受講者数</b>	<b><u>630名 (約33%)</u></b> N=1,917
カシワニネット担当者	204名 (約47%) N=430
一般受講者	426名 (約29%) N=1,487
<b>受講事業所数</b>	<b><u>223事業所 (約51%)</u></b> N=430
全員受講の事業所数	96事業所 (約22%) N=430
<b>アンケート回答者数</b>	<b><u>486名 (約77%)</u></b> N=630
<b>周知方法</b>	<p>工夫①カシワニネット担当者宛へ郵送 ※事業所内のカシワニネット利用者へ受講IDを配布及び周知依頼</p> <p>工夫②ICT部会員から職能団体へ周知</p> <p>工夫③カシワニネット「柏市からの重要連絡」にて3回投稿（予告, 前日予告, 終わり）</p>

■ 事業所ベースの受講率は、昨年より約20%増加。  
 全員受講した事業所は全体の約22%  
 ■ 全体の受講者は増加し、約49%が新規受講者である。



周知方法の工夫により  
 広く周知できたのではない  
 か。



# 報告 2 | アンケート結果

## ■ 研修の重要性について (図1)

受講者の97%が個人情報保護に対する重要性を再認識する機会となり、23%が、再認識だけでなく、事業所（または個人）の現状やルール等を再度確認してみようと思ったと回答。

## ■ 研修システムの導入効果 (図2)

メリット : 端末があればいつでも取り組める… 243人 約50%

中断したところから再開できる… 206人 約42%

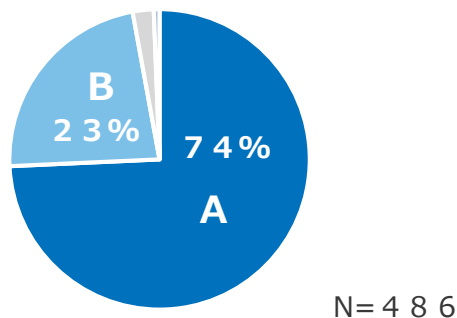
自分の進捗状況がわかる… 166人 約34%

デメリット : ログイン時のID・PWの入力が手間… 122人 約25%

## ■ 考察

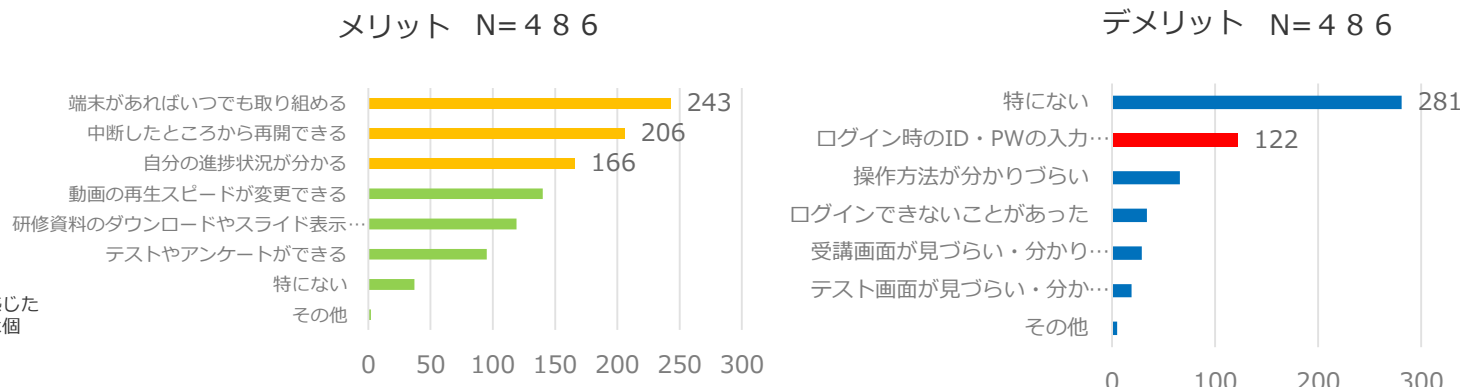
研修システムの導入により、全体的に受講のしやすさは感じる。一方で、ログインを手間を感じている人が全体の約25%を占めているため、工夫が必要。

図1 研修の重要性について



A…個人情報保護の重要性を確認する良い機会となり、研修の意義を感じた  
B…個人情報保護の重要性を再認識できただけでなく、事業所（または個人）の現状やルール等を再度確認してみようと思った  
C…十分理解できていることが多く、研修の意義が感じられなかった  
D…内容が理解できず、研修の意義が感じられなかった

図2 研修システムの導入効果 (複数回答)



- 受講者の約90%以上が個人情報保護に対する重要性を再認識する機会となった。加えて、自分の事業所の現状やルール等を再度確認する等、波及効果も確認できた。
- 研修システムの利用によって、ID保有者全員を受講対象とすることができ、受講率の向上にもつながった。



ID保有者が個人情報保護を再確認する機会を設けることが重要であり、引き続き、手段としてeラーニングを継続していく。

### 今後の予定について

- 本研修のアーカイブ形式での配信（～3月31日まで） **実施中**
- 確認テスト80点以上の受講者へ合格証を発行 **対応中**
- 全員受講した事業所（約96事業所）への優良事業所証の発行※カシワニネット上で公表予定 **対応中**
- 指定期間内に受講できなかった理由の把握 ※令和4年度第1回部会で分析報告予定 **実施中**
  - ・アーカイブ受講時のアンケート実施
  - ・カシワニネット担当者へのアンケート実施

## 議事

4 場面（入退院支援・日常の療養支援・急変時の対応・看取り）における多職種連携の困り事について、ディスカッション（共有）をする。

## 目的

現場目線での課題抽出をおこない、来年度以降の取組みにつなげる。

## 背景

- 部会のミッションはICTだけではなく、「多職種連携のルール作り」もある。
- 現状、市側の課題出しが優先されてしまっており、現場目線での多職種連携の課題抽出ができていない。
- 事前意見とディスカッションを通して、現場目線での多職種連携の課題抽出を行い、来年度以降の具体的な課題解決の取組みにつなげる。
- 出された課題については、3つの作業部会の目的に合わせて整理する。

## 2回のグループワークと全体共有を通して、現場目線での困り事の共有と整理を実施

**GW1**  
15分

同職種間での困り事の共有



**GW2**  
25分

多職種間での困り事の共有



**全体**  
10分

全体共有と整理

- 事前意見まとめを参考に困り事についての共有をしてください。
- あるべき姿について、議論してください。
- GW1の結果を共有してください。
- あるべき姿を実現するために必要になりそうなことを議論してください。
- 全体共有を通して、困り事の共通点等を整理してください。

どの場面においても**情報共有の重要性**が浮き彫りになった。

次年度 協議事項

	困りごと	あるべき姿	実現のために必要になりそうなこと
入退院支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>在宅と病院で情報の相違がある</li> <li>話し合う場がないため、知りたい情報が得られにくい</li> <li>FAX等でのやり取りが多く情報が十分に得られない</li> <li>サマリーが手元に届くのが遅い、情報が古いことがある</li> <li>同職種間連携が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>WEB会議も活用しながら退院時カンファレンスを実施</li> <li>正確な情報共有ができ、知りたい情報が得られる</li> <li>アナログからWEB等に共有ツールが広がる</li> <li>同職種連携が推進される</li> <li>病院と在宅で気楽にやり取りができる。いろいろなツールを気軽に使えるようになるといい</li> </ul>	<p>実現のために必要になりそうなこと</p> <p><b>あるべき姿の実現のために必要になりそうなことを議論</b></p> <p>▼</p> <p><b>具体的な取組みにつなげる</b></p>
日常の療養支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>最も日常に近い職種（訪問介護・通所介護）がオンラインに慣れていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>活用できるICT機能を知ってもらうことで身近に感じてほしい</li> </ul>	
急変時の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘルパー等介護職のみが現場に居合わせている時に、すぐに対処できない</li> <li>多職種で対応の相違やいざという時にブレてしまうことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段から意向確認を行う。ACPを繰り返し行い、チーム内で共有できている</li> </ul>	
看取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬剤師や歯科医師には情報が来ない、看取りの場に介入できていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チームとして最期まで情報共有が必要、ケアマネが中心となってくれると良い</li> </ul>	

## 令和4年度第1回部会

- 令和4年5月頃を予定。

## 協議事項

- 4つの場面毎の困り事, あるべき姿を再共有
- あるべき姿を実現するために「必要になりそうなこと」を議論
- 「必要になりそうなこと」から取組みの具現化へ繋げる